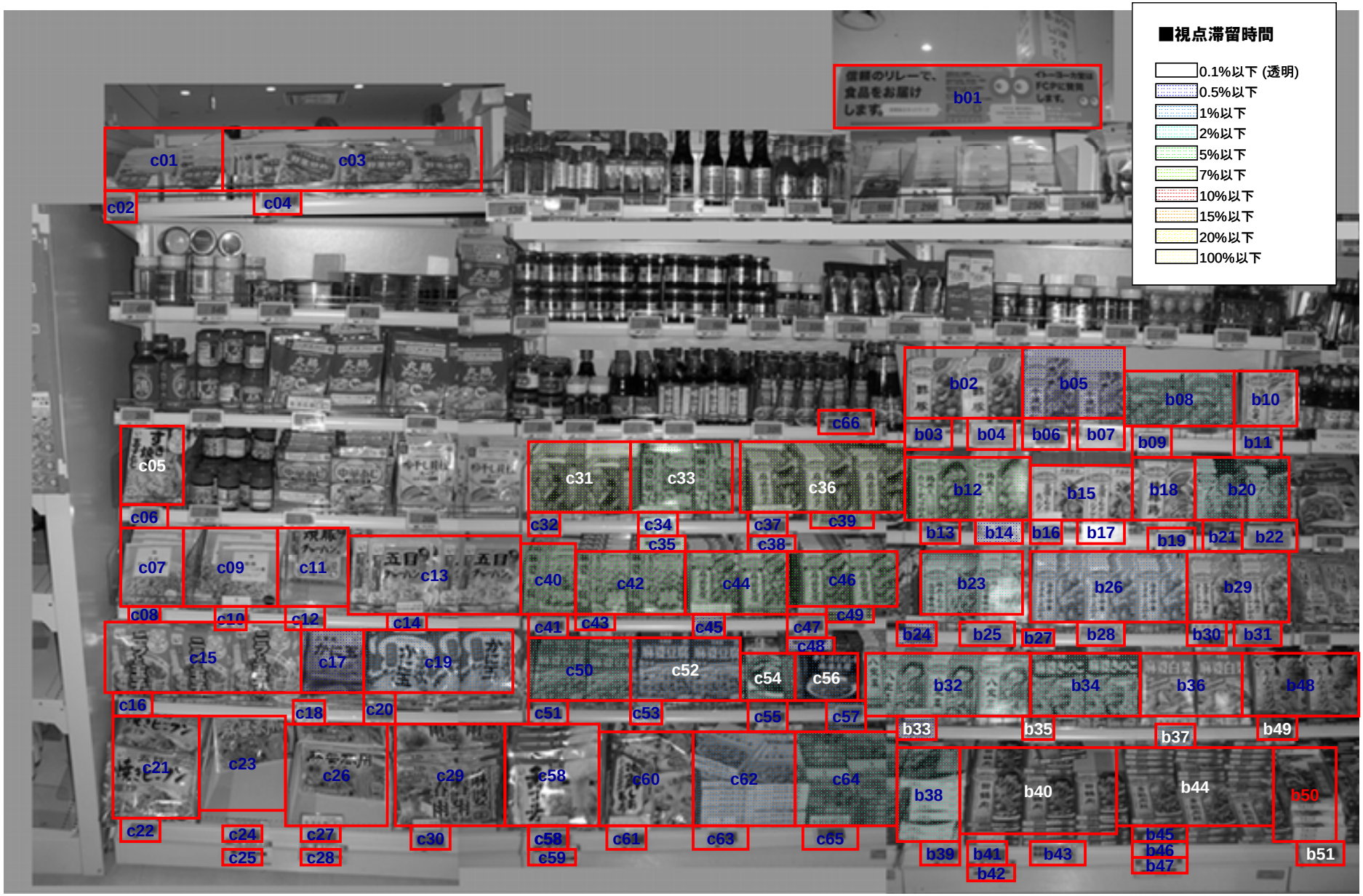
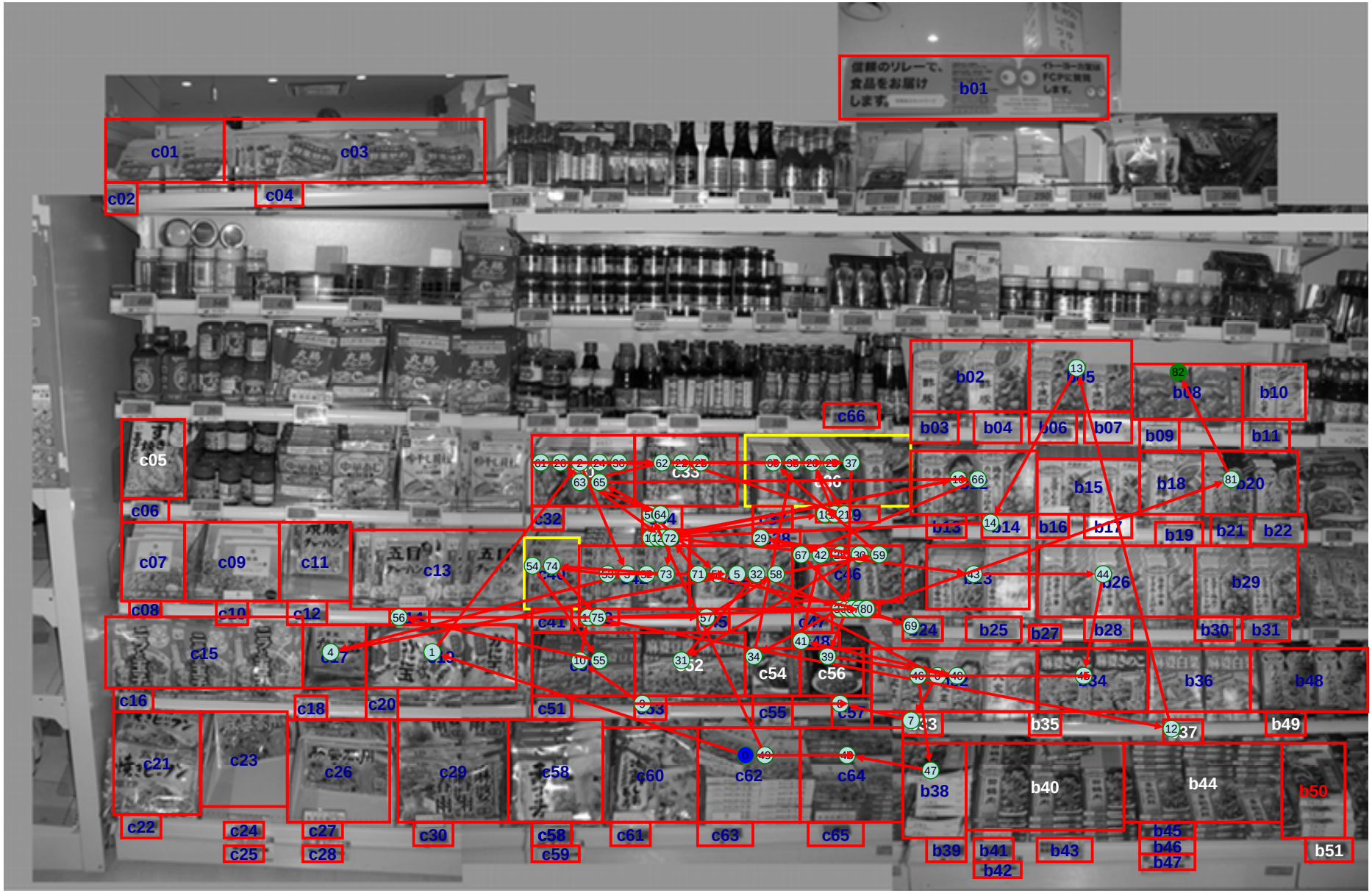
②調査結果

10/12 中華合わせ調味料売場

Various Intelligence Solutions and Marketing Corporation.




c01
c02
c03
c04
c05
c06
c07
c08
c09
c10
c11
c12
c13
c15
c16
c18
c20
c21
c22
c23
c24
c25
c26
c27
c28
c29
c30
c32
c33
c35
c41
c46
c51
c54
c55
c56
c57
c58
c59
c60
c61
c62
c63
c64
c65
c66
b01
b02
b03
b04
b06
b07
b08
b09
b10
b11
b13
b14
b15
b16
b17
b18
b19
b20
b21
b22
b24
b25
b26
b27
b28
b29
b30
b31
b33
b34
b35
b36
b37
b38
b39
b40
b41
b42
b43
b44
b45
b46
b47
b48
b49
b50
b51

2）その他の普及活動について

＜インターンシップ型実習プログラムの方向＞

【目的】

食の安全・信頼向上に積極的に取り組む企業等の協力のもと、企業に対する理解促進と大学生の就業力を育成するため、現場実習を伴う教育プログラムを試行し、教育課程内の正課として位置づけることのできる優れた学習プログラムの開発を行う。

本年度は昨年度のトライアル（協力：キユーピー株式会社様）を踏まえたカリキュラムを作成し、平成24年度からの実施を目途に、東京大学農学部で単位認定の対象となる正課（仮称：インターンシップ型実習プログラム）としての運用をめざす。さらに、本プログラムをモデルとして、全国の大学にも同様の教育プログラムの普及を図る。

【カリキュラム化のイメージ】

①プログラム実施の期間は授業がない９月中が中心
②期間内に企業のパッケージプログラムを6プログラム程度準備する
③3つ以上のプログラムを選択、受講する
④1プログラムは、座学＋工場見学（実習）＋講義担当者を交えた対話・討論とし、合計時間は実質6時間を必須とする
⑤受講後にレポートを提出する

【対象者】

〇受講者＝東京大学農学部　中嶋研究室受講生（大学生、大学院生）　各回　最大20名（最小8名程度～）

【事前ヒアリング結果】

①A社：既に同様の問い合わせ・依頼が多く、受け入れは難しいとのこと。

②B社：1都3県エリアが希望とのことにて研究所での受け入れを検討したが、困難なため、東海エリアの工場でもよければ、受け入れ可能。（移動時間を考慮すると、工場で6時間対応することが難しいため、例えば、本社で座学、工場で実習と2日間実施することも考えられる。）

③C社：工場で1日対応すると、他の小・中学校等の見学を断らなければならなくなるため、最長4時間を限度としたい。
また、かつては本社において、生徒・学生による訪問対応を行っていたこともあったが、業務への影響等により現在は実施していない。
プログラムの内容として、「対話」を行うのは重要である。お互いに気づきがある。

【プログラム内容】

①プログラムのコンセプト

・新入社員研修プログラムを、１日で本社及び現場（工場等）において、学ぶことができるインターンシップ型実習プログラム

②プログラムの基本仕様

〇座学＋現場実習の組み合わせを通じて、企業の食に対する取り組みを学習・理解できるもの

〇1日7時間程度で、企業理念および取組の全体像を概括できるもの

〇下記のパッケージを「ひな形」として、各企業が行っている新入社員向け研修プログラム、事業者向け現場視察プログラムなど実施している内容を適用する

〇学習（理解促進）の効果測定、企業取組に対する評価や提案等を得ることを目的として、実習時の参加者との意見交換、実習終了後の参加者レポートの提出を行う

【プログラムパッケージ例】

	講義	時間目安	内容
午前	**●オリエンテーション**	30min	・プログラムのねらい、注意事項
	●座学	90min	・企業の経営理念、食に関する基本指針および具体的施策等に関するレクチャー
午後	**●現場見学・実習**	120min	・生産加工、管理、流通等の現場の見学と説明、実習など
	●参加者ディスカッション	90min	・企業研修で学んだことや気づきの整理。企業に対する提案など
（事後）	**●参加レポート提出**	―	・学習・実習内容の振り返りと学んだことの整理。企業活動に対する専門的見地からの評価、提案

③実施場所のタイプ

プログラムは工場や研究所での見学・実習を伴うことが必須ですが、実施場所はインターンシップ的な経験ができるよう、本社及び生産現場（工場、研究所等）において実施することが理想です。しかしながら、実施場所の制約が少なからずあるため、大学での出前講座と工場を組み合わせたタイプも検討する必要があります。

〇タイプA：工場：講義と工場見学実習の両方を工場で行う

〇タイプB：本社＋工場：講義を本社等で行い実習を工場で行う（この場合は2日に渡ることも考えられる）

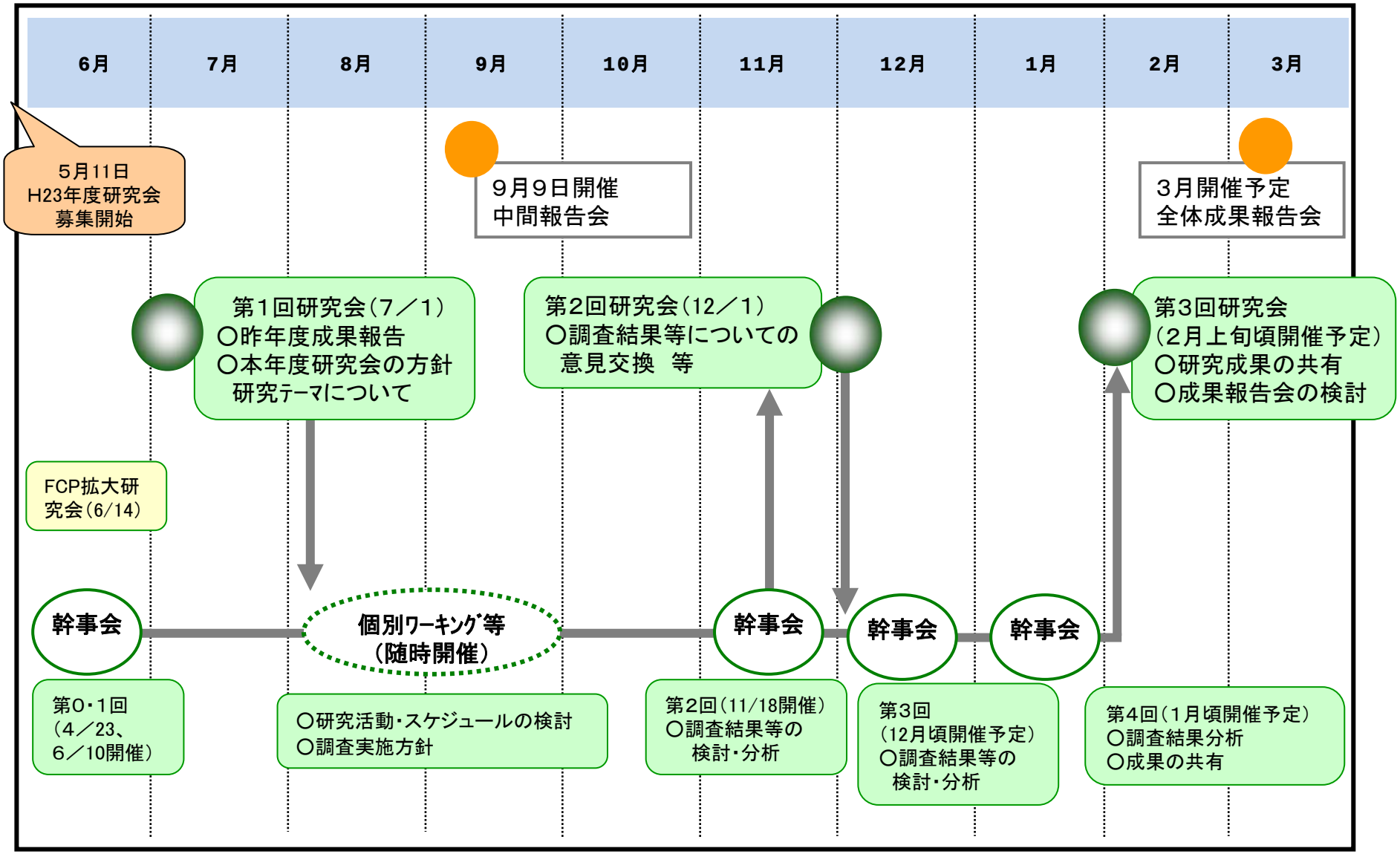
〇タイプC：大学＋工場：出前講義を大学で行い工場で実習する（同様に2日に渡ることも考えられる）

【本事業によるベネフィット】

〇企業CSR活動の一環として大学インターンシッププログラム受入を行った実績と成果を、広報に活用できます

〇参加者ディスカッション、事後のレポート提出を通じて、専門的知識をもつ大学生・大学院生から、企業活動に対する評価、提案などのフィードバックを得ることができます

〇新たな産学官連携の可能性が広がります

3. スケジュール

研究会は3回開催の予定で、次回H24年2月が最終回となります。